

ときを越え
受け継がれるもの

日向牧野

Ⅱ 衣川区日向 Ⅱ

国民宿舎サンホテル衣川荘の裏手を走る市道陣馬線。「サイクリングロード」と呼ばれるこの道を西に進み、東北ニュージールランド村を過ぎると、右手に日向牧野の緩やかな斜面が見える。

牛の飼育を行っていた酪農家が牧野から撤退し、荒廢が懸念された昭和55年、地元農家が仔馬の繁殖に名乗りを上げた。翌年、それを受けた当時の衣川農協が馬産部会を結成し、農耕馬の放牧を始めた。毎年5月の連休明けに開牧式が行われ、放牧馬たちが一斉に駆け出す風景は、衣川区ならではのものとして根付いてきた。放牧されている馬たちは、奥州ころもがわ祭りやグリーンツーリズムに訪れた子どもたちとの触れ合いなどでも活躍し、地域振興にも一役買っている。

馬たちがのんびりと草を食み、牧野を歩く風景を訪れる人たちの心を和ませる日向牧野。人と馬とが触れ合いながら、馬産地としての歴史を刻んでいく。

※牧野は随時見学が可能だが柵内への立ち入りは厳禁

広告



1放牧は5月から11月半ばまで行われている。早稲田大学継走部が合宿に訪れる時期には、サイクリングロードで練習に励む部員たちを遠目に馬たちが追い駆ける、ほほ笑ましい姿が見られることも **2**開牧式で牧野に駆け出す馬たち。ことしは農耕馬のほか、乗用馬やポニー、道産子など9頭が放牧されている(27年5月12日・JA岩手ふるさと馬産部会撮影)

